

静波海岸からの手紙

島田市内中学校

大石さん

今年は昨年延期になった東京オリンピック2020がついに開幕した。日本選手団は怒涛のメダルラッシュを見せ、過去最多のメダル数となった。7月にオリンピックの事前合宿に来るアメリカ選手団を迎えるため練習会場となる静波海岸では牧之原市主催のビーチクリーン大作戦が行われた。僕はこのビーチクリーンにボランティアとして参加して驚いた。海岸にはたくさん流木や、石、ごみがあちらこちらに広がっていたのだ。ごみは、様々な種類があった。結局、総勢約200人が1時間で拾った流木、石、ごみの量は軽トラック2台分にも及んだ。

僕は愛着のある地元の静波海岸をきれいにすることが出来てすっきりした気持ちになったが、「なぜ、こんなにも海岸にごみが落ちているのだろうか?」と疑問に思った。静波海岸は夏の時期、海水浴場としてたくさん観光客やサーファーが訪れる場所である。大勢の人が使う場所にごみが落ちていると不快になるし、海の汚染にもつながる。僕は夏休みの数日間、親と一緒に静波海岸のビーチクリーン活動をすることにした。一回の活動は朝の三十分程度で、ごみの種類は、たば

この吸い殻など、この前のビーチクリーンと同じようなごみや、海水浴場が解放されたことでビーチサンダルやゴーグル、砂遊びで使うもちゃなど、この時期ならではのゴミもあり、全体的にごみが以前より増えたような気がした。ごみの中ではたばこの吸い殻が特に多く、小さいので見逃しやすいし、空き缶の中に入っていることもあり、分別がとて大変だった。インターネットで調べてみると、海岸を汚染するゴミのうち最も多いのがたばこの吸い殻だという記事を見つけた。たばこの吸い殻は海でポイ捨てされたもの以外ほとんどが、街でポイ捨てされ下水から河川を通ってきたものだということ、有毒なニコチンが入っていたり、自然で分解されるまで最長十三年もかかるプラスチック製のフィルターなど自然環境に影響を与えるものが入っていることなどを知った。

また、あるビーチクリーンの日、日本に台風が近づいている影響で風が強く、波も荒かった。そんな中いつも通りごみを拾っていると見慣れない一つのペットボトルを見つけた。そのペットボトルのラベルをみると、原産地が台湾と書いてあり、周りには漂流や流木に付着して生息する「エボシ貝」が付いていた。家に帰り調べてみると、このペットボトルはやはり「蘋果西打」という台湾で人気のアップルサイダーだった。海に捨てられたごみの流れ方についても調べてみると、

日本の太平洋側の海岸に漂着したごみは黒潮に乗ってくるものが多いことを知った。今回発見したペットボトルも台湾から長い月日をかけてこの静波海岸に漂着したのだろう。このように海に出てしまったごみは海外にまで影響をもたらしてしまうということが分かった。最近のニュースや記事では、海に流されたプラスチックは自然に分解されにくく、ペットボトルだと四百年もかかることやマイクロプラスチックとなり、海の生き物にも危害を与えてしまうということがよく報じられている。今回の活動を通して静波海岸の現状を知ることがはでなく、海洋問題についても改めて確認ができた。

「めんどくさい」「周りもやってる」という小さな気持ちから始まったポイ捨てという行為で、その場所を汚すだけでなく、海外の人たちや海に住んでいる生物にまで危害を加えてしまうかもしれない。このようなことを一人一人が頭の片隅に入れながら責任をもって行動しなければならぬと思う。その一人一人の行動がたとえ小さくてもやがて必ず未来に繋がると思う。この作文に書いたことは世界の三十億分の一ぐらいの人にしか伝わらないかもしれないが僕自身が率先して行動することが大切だと思う。僕には具体的に何が出来るだろうか？ごみをすべてゼロにすることはできない。でも減らすことなら出来るかもしれない。例えば、コンビニやスーパーではマイバッグを持参した

り割りばしをもらわないようにするReduce、自分が着られなくなった服はいとこに回すReuse、買い物に行ったときはエコマーケの付いたものを選んで買うRecycleなどR活動を実践したい。また、これからも休日などはゴミ拾いに行くことを続けることも良いと思う。僕の行動でごみを減らすことが出来たらそれ以上に嬉しいことはないし、その行動でほかの人にも影響を与えることが出来たらもっと減らすことが出来るはずだ！この繰り返しで、いつか僕の大好きな静波海岸のごみはなくなるかもしれない。そう思うと、ワクワクしてきました。そうだ、また明日も静波海岸に行ってビーチクリーンをしよう！